

大学等名	岡山学院大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件

③ 修了要件

下記の授業科目を全て修めること
 基礎教育科目：基礎数学、ICTリテラシーI、ICTリテラシーII、データサイエンスI、データサイエンスII、ソサエティ5.0理解
 現代基礎科目：インターネットと法

必要最低単位数 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
ソサエティ5.0理解	2	○	○	○					
インターネットと法	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
ICTリテラシーI	2	○	○	○					
ICTリテラシーII	2	○	○						
データサイエンスII	2	○	○						

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
ICTリテラシーI	2	○	○	○					
ICTリテラシーII	2	○	○						
データサイエンスII	2	○		○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
ICTリテラシーI	2	○	○	○					
ICTリテラシーII	2	○	○						
データサイエンスII	2	○	○						
ソサエティ5.0理解	2	○		○					
インターネットと法	2	○		○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
基礎数学	2	○	○		○						
ICTリテラシーⅡ	2	○		○							
データサイエンスⅠ	2	○	○	○	○						
データサイエンスⅡ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
基礎数学	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「ソサエティ5.0理解」(第1回)(第4回)(第5回)(第6回)(第9回)、「インターネットと法」(第3回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「ソサエティ5.0理解」(第6回)(第7回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会・複数技術を組み合わせたAIサービス「ソサエティ5.0理解」(第6回)(第7回) ・人間の知的活動とAIの関係性「ソサエティ5.0理解」(第9回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「ソサエティ5.0理解」(第9回)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「ソサエティ5.0理解」(第9回)、「インターネットと法」(第13回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「ソサエティ5.0理解」(第10回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンスⅡ」(第14回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「ICTリテラシーⅡ」(第7回)(第8回)(第9回)(第10回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「ICTリテラシーⅠ」(第4回)(第5回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)・データのオープン化(オープンデータ)「ICTリテラシーⅡ」(第7回)(第8回)(第9回)(第10回)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「ICTリテラシーⅠ」(第14回)
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「ICTリテラシーⅡ」(第8回) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「ICTリテラシーⅠ」(第4回)(第5回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「ICTリテラシーⅠ」(第9回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「ICTリテラシーⅠ」(第9回)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンスⅡ」(第12回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「ICTリテラシーⅠ」(第10回)(第11回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンスⅡ」(第12回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「ICTリテラシーⅠ」(第13回)(第14回) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「ICTリテラシーⅡ」(第5回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「ICTリテラシーⅠ」(第13回)(第14回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「ICTリテラシーⅠ」(第13回)(第14回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「ICTリテラシーⅠ」(第13回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「ICTリテラシーⅠ」(第13回)(第14回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「ソサエティ5.0理解」(第13回)、「インターネットと法」(第11回)(第12回)「ICTリテラシーⅠ」(第13回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンスⅠ」(第2回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンスⅠ」(第2回)、「基礎数学」(第8回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンスⅠ」(第2回)、「基礎数学」(第8回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)・観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンスⅠ」(第8回)、「基礎数学」(第9回) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データサイエンスⅠ」(第12回) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「データサイエンスⅠ」(第10回) ・クロス集計表「データサイエンスⅠ」(第4回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データサイエンスⅡ」(第14回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「ICTリテラシーⅡ」(第6回)(第9回) ・データの図表表現(チャート化)「データサイエンスⅠ」(第7回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較)「データサイエンスⅡ」(第2回) ・不適切なグラフ表現(不必要な視覚的要素)「データサイエンスⅡ」(第12回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「基礎数学」(第2回)「データサイエンスⅠ」(第2回)「ICTリテラシーⅡ」(第7回) ・データの並び替え、ランキング「ICTリテラシーⅡ」(第8回) ・表形式のデータ(csv)「データサイエンスⅡ」(第12回)(第13回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数量的スキルやICTリテラシーでSociety 5.0時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、Society 5.0時代のビッグデータを管理・活用し、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげるマネジメント力を獲得する。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和3 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
人間生活学部	102	40	160	24	11	13	0	0	0	22	5	17	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	29%			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合計	102	40	160	24	11	13	0	0	0	22	5	17	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	29%						

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 学生に、①専門職として予測困難な時代を生き抜くための、学生が自律的に学習し行動する力を身に付けること、②数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を身に付けることを目標とした「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会」を設置。

- ⑦ 具体的な構成員
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会(令和4年度)
 学長 原田博史
 副学長 原田俊孝
 専任講師 納庄聡
 専任講師 平野聡

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	29%	令和5年度予定	100%	令和6年度予定	100%
令和7年度予定	100%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	160

具体的な計画

令和3年度実績について、履修者数22人中修了者数は8名であった。
 少数であった理由として、令和3年度の基礎数学・データサイエンスⅠ・データサイエンスⅡの担当教員の授業内容が不明確であったため、学生授業評価も良くなかったためである。
 令和4年度は、担当する教員を新規に採用したので多くなると予想する。
 令和5年度は100%目標を達成するために、入学生対象のオリエンテーションから本プログラムの目的と意義について説明し、学生自身が目標を持って履修するよう指導する。また、「教学マネジメント」の授業で数理・データサイエンス・AI教育の内容を取り上げ、よりデータ分析を身近なものにする。さらに、高大接続の観点も取り入れ、学生募集などに反映させる。
 令和6年度は、上記の内容を踏まえ、本プログラムの修得者が4年次生になるので、国試対策や就職活動などでどのように活かされたか分析する。
 令和7年度・令和8年度は上記のことを踏まえ、卒後のアンケート結果を基に課題を発見し改善を図る。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

クラスメンターとの面談で履修指導を行っているので、本プログラムを履修するよう指導する。また、本プログラムの内容は、管理栄養士業務の実践力向上の基礎となるため、目的意識を持って履修するよう指導する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

構成員だけでなく、全教員が本プログラムの推進を図るため、学科FD会議で進捗状況及び学修成果達成状況を確認しプログラム向上・充実を図るPDCAサイクルを廻す。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

カリキュラムポリシーにおいて、高大接続の観点からプログラム教育を編成及び実践することを入学志願者に徹底して案内すると共に、入学生にはプログラム教育のエンロールメントを徹底する。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

【基礎数学、ICTリテラシー I・II、データサイエンス I・II】
授業時間内外共に、情報処理を専門としている専任講師が、学習指導及び質問を受け付ける。

【ソサエティ5.0理解】
授業時間内外共に、人間関係・哲学を専門としている併設の岡山短期大学の主任教授が、学習指導及び質問を受け付ける。

【インターネットと法】
授業時間内外共に、法学を専門としている非常勤教員が、学習指導及び質問を受け付ける。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

岡山学院大学自己点検・評価委員会

(責任者名) 畑伸秀

(役職名) 学科長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>令和4年度実績について、履修者数22人中修了者数は8名であった。少数であった理由として、令和3年度の基礎数学・データサイエンスⅠ・データサイエンスⅡの担当教員の授業内容が不明確であったため、学生授業評価も良くなかったためである。</p> <p>令和4年度は、担当する教員を新規に採用した。また、FD・SDワークショップで授業科目「データサイエンスⅠ・Ⅱ」の実施及び学習状況について点検し情報共有を図った。さらに、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会を令和5年3月に実施し「基礎数学」「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」「ICTリテラシーⅠ」「ICTリテラシーⅡ」のシラバスを点検し改善を図った。</p>
学修成果	<p>汎用的学習成果に「数量的スキルやICTリテラシーでSociety 5.0時代のビッグデータを管理・活用し、円滑なチームワーク、リーダーシップ、対人コミュニケーションで、Society 5.0時代のビッグデータを管理・活用し、個人のヘルスプランを創案し、健康改善につなげるマネジメント力を獲得する。」と明記しプログラムに関係する授業を配置しているが、プログラムの目的を明確にするために再点検する。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>学生の学習状況を把握するために、データサイエンスⅠの授業(10回目)にてアンケートを実施した。</p> <p>①授業に積極的に参加できていますか？ ②学習内容に満足していますか？ ③授業の中で身に付いたと思うことを選択してください(複数回答可)。</p> <p>Excelの操作ができる 数値の見方がわかる 数値をもとに説明できる</p> <p>アンケートの結果、学習に積極的に参加している学生(84.2%)や学習内容に満足している学生(100%)が多く、学生の期待通りの学習ができていることがわかる。一方、授業中に身に付いた内容としては、Excelの操作スキルが獲得できた学生(94.4%)が多くなるものの、数値をもとに説明できる学生(11.1%)は少なく、残りの授業回における課題である。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>数理・データサイエンス・AI教育推進委員会で学生への推奨度を点検し改善する。構成員だけでなく、全教員が本プログラムの推進を図るため、学科FD会議で進捗状況及び学修成果達成状況を確認しプログラム向上・充実を図るPDCAサイクルを廻す。</p> <p>令和3年度の授業アンケートの結果から後輩への推奨度は低いものと考え、令和4年度のデータサイエンスⅠ及びⅡの授業アンケートの結果から推奨度は上がっていると考察する。</p> <p>推奨度の向上を図るためには、本プログラムの目的と意義を広報していくことが重要であると考え。具体的には、入学前と在学中の広報活動を行い、本プログラムの目的と意義を十分に広報する。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>プログラムの全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を点検している。</p> <p>下記の通り、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修者22名に対し修了者8名であった。少数であった理由として、令和3年度の基礎数学・データサイエンスⅠ・データサイエンスⅡの担当教員の授業内容が不明確であったため、学生授業評価も良くなかったためである。</p> <p>令和4年度は担当する教員を新規に採用した。また、FD・SDワークショップで授業科目「データサイエンスⅠ・Ⅱ」の実施及び学習状況について点検し情報共有を図った。さらに、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会を令和5年3月に実施し「基礎数学」「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」「ICTリテラシーⅠ」「ICTリテラシーⅡ」のシラバスを点検し改善を図った。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>学生の卒業後評価への取組として、卒業生アンケートを毎年実施しFD・SDワークショップで報告し情報共有を図っている。</p> <p>プログラムに関する「栄養計画(栄養状態の分析、栄養必要量設定)の立案・実行が的確にできる」項目が36.4%と低い。卒業生はプログラム履修生ではないため参考値であるが、プログラムを履修することで80%近い数値を獲得することができる。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>外部評価の実施について、下記のとおりステークホルダーに対して外部評価を行っている。また、外部評価の結果をFD・SDワークショップで報告し全学的に情報共有を図っている。</p> <p>高校教員にSociety5.0の取組について確認してきたところ、良いと感じている教員が少ないことがわかった。プログラムに関係するため説明資料を早急に作成し広報活動などで活用する。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>ソサエティ5.0理解の授業で、管理栄養士・栄養士などの専門職の現場を意識したソサエティ5.0時代の時事トレンドを発信し、履修生の数理・データサイエンス・AI教育に対する好奇心の向上を図っている。年3回の推進委員会の課題及び解決策の内容は、プログラムの改善に活用している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>数理・データサイエンス・AI教育推進委員会でより「分かりやすい」授業をすることに対してPDCAサイクルを廻している。構成員だけでなく、全教員が本プログラムの推進を図るため、学科FD会議で進捗状況及び学修成果達成状況を確認しプログラム向上・充実を図るPDCAサイクルを廻す。</p>

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

申請区分	リテラシーレベル
------	----------

① 授業内容

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科は、「我が国の少子高齢化時代に対応する栄養管理の専門教育に重きをおく大学教育を施し、よき社会人として時代の進運に応じ、Society 5.0で実現する地域社会の指導者たる人材を育成」を教育目標とし、全学部において、認定教育プログラム(リテラシーレベル)(以下、本プログラム)を履修必須としている。

また、健康寿命延伸教室で得た対象者の測定データを活用することで本プログラムの学習意欲及び専門性を高め質的向上を図っている。

「分かりやすさ」について

数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会で本プログラムの授業内容を精査・点検し改善する。また、構成員だけでなく、全教員が本プログラムの推進を図るため、学科FD会議で進捗状況及び学修成果達成状況を確認しプログラムの向上・充実を図るPDCAサイクルを廻す。LMSを活用し、習熟度レベルに合わせた問題や情報を提供する。学生と教員との連絡カードとして授業回毎にチャトルカードを活用しているので、質問のしやすい体制が整っている。

「学習意欲が高まる内容」及び「学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容」について

「Society5.0人材養成プログラム」を通して、専門性を踏まえた学習意欲を高める学習内容を設定している。「Society5.0人材養成プログラム」は、Society5.0社会の現場に即応する管理栄養士として活躍するための学生の学習成果を獲得する本学独自のプログラムである。具体的には、健康寿命延伸教室で取得した対象者の測定データ(以下、測定データ)を活用し、本プログラムで測定データの作成・蓄積・分析を行う。また、専門分野である「栄養アセスメント」で測定データを応用する。アセスメントループに従って点検・評価・改善を図っている。

② 学生への学習支援

本学では、学習支援システムの構築及び学生の学習成果の可視化で独自の支援体制を実施している。

「学習支援システムの構築」について

LMSを使った支援の他に、スマートOKAGAKUアクションを実施し学生支援システムの構築を図っている。スマートOKAGAKUアクションとは、入学前から在学中、卒業、卒業後まで教職員が徹底フォローする本学独自のエンロールメントサポートである。例えば、入学前から入学予定者に対してLMSの活用法やデータ分析の基礎を教授し、在学中はクラスメンターと共に学生一人ひとりの目標に対するPDCAサイクルを廻してSociety5.0の人材となる夢を実現する。また、在学中に学生の学習成果の可視化をディプロマ・サプリメントとして創作しているため、本プログラムの習得度を把握することが出来る。(後述参照)

卒業後は卒業生アンケート及び就職先アンケートの結果から課題を発見し随時改善を図る。

「学修成果の可視化等の導入」について

Society5.0人材養成プログラムの学生の学習成果の可視化を図る。具体的には、教学マネジメントの授業でディプロマ・サプリメントの初期データを作成し学生一人ひとりの学生の学習成果の可視化を図っている。学生の学習成果を獲得するカリキュラムポリシーからカリキュラムツリーを作成しているため、ディプロマ・サプリメントの信頼性が担保できる。ディプロマ・サプリメントからSociety5.0人材養成プログラムに関するレーダーチャートを作成し学習成果の可視化を図っている。教学マネジメントの授業終了後は、クラスメンターと情報共有を図り、国試対策ゼミや学生支援に活用している。

「補完的な教育の実施」について

予習・復習がしやすくなるよう、補完的教育を実施している。具体的には、本プログラムのLMSに授業で活用したデータを入れて、いつでも学習できるようにしている。

③ その他の取組(地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等)

本プログラムは、地域コミュニティのニーズを踏まえた教育プログラムである。

「地域連携や産業界との連携」について

倉敷市老人クラブ連合会と連携して、栄養指導と健康に配慮した食事の提供を学生主動で運営する「健康寿命延伸教室」を実施し対人指導能力を高めている。健康寿命延伸教室で得た対象者の測定データを用いて課題を発見し解決方策の工夫を検討する。データ分析の結果は、倉敷市老人クラブ連合会の報告するなど地域社会への還元する。

令和4年度教育計画 (食物栄養学科)							
科目名	ソサエティ5.0理解	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは研究室 (B308) 土 0910～1040							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】 近未来社会の人間学 ※Society5.0の技術的・情報学的な問題はICTリテラシーの授業で学ぶ</p> <p>①来るべきソサエティ5.0(超スマート社会)の概要と特色を理解する。ソサエティ5.0とは政府が提案する「我が国が目指すべき近未来社会の姿」であり、科学技術基本計画に謳われている。コンピュータが作り出すシミュレートされたサイバー空間(仮想世界)と目の前の生々しいフィジカル空間(現実世界)が遊離するのではなく、個人や社会全体で上手に融合し、巨大で複雑な情報(ビッグデータ)に基づいて生産や生活が営まれるので、時間や労力の無駄がなく、長年の社会的課題(少子高齢化、地方の過疎・都市の過密、経済的格差、疾病予防…)を解決しようとするものである。我々の人間性や社会性がしっかりと確率していれば犯罪利用を防ぎ、人間性を最優先できる社会が実現することも夢ではない。</p> <p>例えば現在でも家電製品、建物、乗り物、おもちゃなど日常的なものから、医療や介護の用具から兵器に至る特殊なものまで、あらゆるものにAIが搭載され、それらがインターネットでつながり、管理されている。これらに5G(ファイブ・ジー、第5世代移動通信システム)が基盤として完全に整備され、4Gの10倍の高速大容量・高信頼・低遅滞・多数同時接続が稼働する時、我々人間はどのような生活を営み、どのような人生を送るようになっているのか、次世代を担う子ども達にはどのような影響があり、保育者はどのような環境設定や教育をすればよいのか等についても考察し、将来の役に立てる。</p> <p>②人間とは何か、“現実空間からサイバー空間への移住”を求められようとしている人間は今後どのような存在になっていくのか、について知り、じっくりと繰り返し考え、大学生として必要な初歩的な教養形成をはかる。</p> <p>【学生の学習成果】</p> <p>専門的学習成果 クリエティブ力：新食品企画開発力など マネジメント力：ヘルスプランの創案など ホスピタリティ力：心身のサポートや精神的にケアする力など</p> <p>汎用的学習成果 仕事だけでなく、社会生活、家庭生活も含めた人生の営み全体に必要な「態度・信念・意見」と教養を身に着ける</p>						
	教	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 担当教員が準備し、進行させていく講義である。受講生の専門領域を配慮して授業のラインナップを構成し、題材を準備する。授業中は対話という双方向的要素も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。				
育	予習・復習	1単位45時間の計算によって、講義は30時間、演習は15～30時間の予習・復習を義務付ける。 学問の性格上、簡単には正解にたどりつけない。ゆっくり考えて良いし、何回も考え直してよい。すなわち、悩んだり迷ったりして消費した時間も予習復習時間に計算に入れて良いのである。					
方	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。					
法							

学習評価の方法	<p>【達成基準】</p> <p>①来るべきソサエティ 5.0（超スマート社会）の概要と特色、今後数十年間の人類の生活や人間の生き方、加えて次世代を担う子ども達への影響や教育者としての役割について理解している。（筆記試験の50%=知識）</p> <p>②人類とは何か、人間とは何か、人間に求められる倫理や道徳は何かについて知り、じっくりと繰り返し省察出来ており、大学生として必要な初歩的な教養が形成されている。（筆記試験の50%=倫理）</p> <p>以上を筆記試験において証明すること。</p> <p>【試験方法について】</p> <p>自筆ノート（ルーズリーフはバインダーから外してクリップ等で留める）持ち込み可。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果 筆記試験：授業領域に関する用語や事例の説明および数百字の論述を課する（70%） シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解について評価に入れる（30%） ・汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。
注意事項	参考図書は古今東西の名著から折に触れて指示する

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0（例）政府広報「Society 5.0」Cast 上白石</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0（Society5.0）とは何か</p> <p>①ソサエティ 5.0 の意味（歴史的意味）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソサエティ 1.0 狩猟社会 技術革新＝道具による狩猟、キャンプ生活、移動しながら暮らす ・ソサエティ 2.0 農耕社会 技術革新＝食料の増産と貯蔵、村を作る、定住する、城壁を造る、戦いの激化 ・ソサエティ 3.0 工業社会 技術革新＝蒸気機関と内燃機関の発明、自動車や飛行機で世界を移動する、地球規模の戦い、宇宙空間への進出 ・ソサエティ 4.0 情報化社会・スマート社会 技術革新＝コンピュータとインターネット、家に居ながら世界とつながる ・ソサエティ 5.0 超スマート社会 技術革新＝AI・VR・ロボット、現実空間から旅立ち仮想空間で暮らす、2030年頃か或いは2050年頃の世界 <p>②ソサエティ 5.0 のイメージ（どんな生活になっていくか）</p> <p>■作業</p> <p>①親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）IoT（Internet of Things インターネットにつながった冷蔵庫）、AI(Artificial Intelligence 人工知能)、ロボット（robot 人に代わって労働する機械）</p> <p>②“スマート”という言葉の意味と実例を検索してみよう。賢い、おしゃれ、ハイテクな、精密で高感度な、情報処理機能を持った、高度に知的な…</p> <p>■考察</p> <p>ソサエティ 5.0 の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）身代わりロボット（自分の代わりに学校に行ってくれる→自分の代わりにコンサートに行っといってくれる→自分の代わりにデートしておいてくれる…）</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ（例）カロママ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

2 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0（超スマート社会）の前段階、ソサエティ 4.0（情報化社会、スマート社会）のこと</p> <p>■作業：①情報社会の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）インターネット、掲示板、ブログ、SNS、オフ会、ネットゲーム、コントローラー（左右の6本指を自由に操る子供たち）</p> <p>■考察：情報社会の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ユートピア、サイバーパンク、ネット予約</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
3 回	<p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と ICT（Information and Communication Technology）、IT は情報技術、ICT は情報通信技術（技術の“使い方”まで範囲に入る）</p> <p>■作業：①IT と ICT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。</p> <p>■考察：IT、ICT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
4 回	<p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と IoT（Internet of Things） 情報・知識の共有</p> <p>■作業：①IoT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）自動操縦、自動車のインターネット化、旅先からスマホで遠隔操作できる猫トイレ…、</p> <p>■考察：IoT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）旅先からスマホで家の中をモニタリングする、子どもや認知症高齢者の現在地や行動履歴を常時監視できる GPS アイテム、子ども・家族…ペット…恋人の常時監視</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
5 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と AI（人工知能） 情報分析の負担軽減</p> <p>■作業：①AI（Artificial Intelligence） の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）お掃除ロボット（ルンバ）、自動運転、Siri（Speech Interpretation and Recognition Interface）、感情のあるロボット Pepper（ペッパー）、将棋 AI（PONANZA）</p> <p>■考察：AI の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

6 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ロボット、無人ロボット・支援ロボット→労働環境改善と危険回避</p> <p>■作業：①ロボット (robot) の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) ロボット (人に代わって労働するタイプ、人間が働かなくてもよい)、アンドロイド (容姿を誰かにそっくりに作っているタイプ、死んだ人の代わり)、オートマタ (自動人形、自分の意思はないタイプ、外形は重視)。</p> <p>■考察： ロボットの善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) 介護支援ロボット、保育支援ロボット、ロボット兵士</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。■映像におけるソサエティ 5.0</p>
7 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容： ソサエティ 5.0 と映像技術 VR/AR/MR/SR VR (Virtual Reality) 医療支援 VR ソフト「オザイリクス」(Osirix) 内臓を3Dで表現し医師・看護師・技術者でイメージ共有、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」(VR ソフトと組み合わせてミリ以下の手術、GPSで臓器の裏側まで把握)</p> <p>■作業：①VR の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) 観光客誘致、名古屋城問題、「お城の天守閣を木造復元するのがよいか、スマホをかざしてARで、あるいはゴーグルを付けてVRで出現させて、戦場体験までできるのがよいか」</p> <p>■考察：VR の善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) 3D画像を使った手術支援ロボット (ダ・ヴィンチ)、ゲーム依存、引きこもり</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
8 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と輸送技術、ドローン (drone 蜂)、輸送物流効率化と地域格差是正</p> <p>■作業：①ドローンという言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) トイドローン、ドローン芸人、宅配ドローン、『スローな武士にしてくれ』(NHKのクローンスタッフが4Kスーパーローカメラを搭載したドローンで撮影する)</p> <p>■考察：ドローンの善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) 災害救助ドローン、医療ドローン、殺人ドローン、無人戦闘航空機、観光ドローン</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
9 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と情報の作られ方、ビッグデータ、(例) 携帯電話位置情報から地域住民の動きを把握 (コロナウイルス感染対策) →都市封鎖、購入履歴・閲覧履歴→購入提案 (刻々と入ってくる商品情報→あなたはこの商品を買うべき!)、信用調査 (瞬時にカード作成)、クラウドからのデータ入手、</p> <p>■作業：①ビッグデータ言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例) PASMO、Suica、ICOCA、ドライブカメラ</p> <p>■考察：ビッグデータの善い面 (期待できることなど) と悪い面 (心配なことなど) を考えてみよう。(例) マイナンバー、若者定住、</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

10 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と生活アイテム（例）ウェアラブル、モニタリング</p> <p>■作業：①ウェアラブル言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）スマートウォッチ、GPS 内蔵の学生服、服のディスプレイ化、ウェアラブル端末 Mof Band</p> <p>■考察：ウェアラブル、モニタリングの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ウェアラブル健康管理アイテム、子どもや恋人の常時監視</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
11 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と仕事・人生（例）在宅勤務、テレワーク（Tele Work）、リモートワーク（Remote Work）、サテライトオフィス</p> <p>■作業：①在宅勤務の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）新海作品『秒速 5 センチメートル』の主人公（心を病んだあと、在宅勤務）</p> <p>■考察：在宅勤務の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
12 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と地域創生、地域連携</p> <p>■作業：①“地域創生”“地域連携”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）過疎、過密、『ポツンと一軒家』、スラム街、田舎生活、山村留学、『人生の楽園』、『ドキュメント 72 時間』</p> <p>■考察：地域創生、地域連携の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>
13 回	<p>■講義内容：ソサエティ 5.0 の便利さとプライバシー問題、（例）デジタルツイン</p> <p>■作業：①“デジタルツイン”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例えばスマホの位置情報と買い物データだけでも、特定個人のプライバシーをほぼ推測できる。住まい・職場・遊び場など、趣味嗜好はもちろん、買い物中毒か、パチンコ中毒か、異性関係、転職予定か…など未来予測的なことまで様々なことが把握できる）</p> <p>■考察：デジタルツインの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

14 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と未来の芸術、AI 自動作曲、AI 自動振り付け</p> <p>■作業：①</p> <p>②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例)、</p> <p>■考察：スマートの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。■映像におけるソサエティ 5.0</p>
15 回	<p>■映像におけるソサエティ 5.0</p> <p>■講義内容：ソサエティ 5.0 と人間存在について デジタル化する身体、デジタル人格、デジタル来世（死後もデジタル化した自分がアバターで生き続ける）</p> <p>■作業：①ソサエティ 5.0 時代の文学・音楽・映画は“AI が創造して AI が鑑賞する”、すなわち人間は何もしない、これで面白いのか？考えてみよう</p> <p>②興味を感じる具体例を書き出してみよう。</p> <p>■考察：人類や人間が行ったり発明してきた善と悪について考えてみよう。(例) 技術開発、環境破壊、兵器の発明、文芸の創造、単なる生殖でなく愛という価値の創造</p> <p>■今日のソサエティ 5.0 アプリ</p> <p>■復習と予習：今日のソサエティ 5.0 アプリについてさらにスマホで調べてメモし、次回のシャトルカードに書く。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	基礎数学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学での様々な授業科目の学習において、数学的な論理的思考力や計算能力は欠くことができない。本講義では、栄養士として必要最低限の数学の知識と応用能力の習得を目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した専門的学習成果と数量的スキルや論理的思考力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>プリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時にLMS等による振り返り(本時の学びや感想・質問等)の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項:各回の授業前にプリントに目を通し、学習内容を把握しておく。(90分)</p> <p>復習事項:毎回の授業でその内容のポイントを示すので、プリントの見直しや整理をする。(90分)</p>	<p>テキスト</p> <p>特に指定せず、適宜プリントを用いる</p>	<p>学習評価の方法</p> <p>各回の小テスト及び振り返りレポート (50点)</p> <p>定期試験 (50点)</p>	<p>注意事項</p>	

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、数の種類・性質</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>数と式の計算（1）</p> <p>足し算と引き算、かけ算（累乗、指数法則）と割り算、四則計算</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>数と式の計算（2）</p> <p>文字式（分配法則、乗法公式）、式の展開・因数分解</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>数と式の計算（3）</p> <p>割合（歩合、パーセント）、平方根、指数と対数</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>数と式の計算（4）</p> <p>単位（距離、重量、食品、栄養素、エネルギー）</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>数と式の計算（5）</p> <p>不等式、関数とグラフ（1次関数、2次関数、n次関数）、</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>数と式の計算（6）</p> <p>一次方程式、二次方程式</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>データ分析（1）</p> <p>有効数字、代表値</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>データ分析（2）</p> <p>標準偏差</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>集合と命題</p> <p>集合（和集合、和集合、空集合、補集合）、命題（真・偽）、逆、裏、対偶。</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>場合の数と確率（1）</p> <p>樹形図、階乗、順列、組合せ</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>場合の数と確率（2）</p> <p>確率の性質、いろいろな確率（独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率）</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>整数その他</p> <p>約数と倍数、n進法、期待値、オッズ</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>方程式（1）</p> <p>方程式の立て方、解き方</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>方程式（2）</p> <p>方程式の立て方、解き方を学び、問題解決力を修得する</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：配布プリントをもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	ICTリテラシーI	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータの基本構成や仕組みについて説明できる。 ● コンピュータでのデータの表現について説明できる。 ● 様々な情報技術について仕組みや役割について説明できる。 ● ICT 活用を問題解決の手順について説明できる。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した 4 つの専門的学習成果と情報リテラシーや論理的思考力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時に LMS 等による振り返り (本時の学びや感想・質問等) の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>	<p>予習・復習</p> <p>予習事項 : 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90 分)</p> <p>復習事項 : 各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90 分)</p>	<p>テキスト</p> <p>國友義久 : 2011 『IT の基礎』近代科学社</p>			
学習評価の方法	<p>定期試験 (50 点)</p> <p>授業内での小テスト及び振り返りレポート (50 点)</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、コンピュータの歴史、電子メール</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>コンピュータの基本構成と入出力装置</p> <p>ハードウェア・ソフトウェアの役割と性能、入出力の形態</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>プロセッサの仕組みと性能評価</p> <p>プロセッサの仕組みと役割、プログラムの実行とプロセッサの実行と命令</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>データの表現①</p> <p>アナログとデジタル、2進数、10進数、16進数</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>データの表現②</p> <p>画像・音声・文字の表現</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>補助記憶装置</p> <p>補助記憶装置の役割と機能、磁気・光ディスク</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>入出力インタフェース</p> <p>入出力インタフェース、インタフェースとの種類</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>オペレーティングシステム</p> <p>オペレーティングシステムの役割と機能</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>アプリケーションソフトウェア</p> <p>共通・個別アプリケーションソフトウェア</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>データベース</p> <p>データベースの概念と必要性、関係データベース</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>ネットワーク</p> <p>通信ネットワークシステムの基本構成</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>インターネット</p> <p>インターネットの仕組みと通勤規約</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>情報セキュリティー</p> <p>情報セキュリティーの必要性と対策、脅威と脆弱</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>ICTを活用した問題解決</p> <p>問題解決の基本的な手順、コンピュータの役割</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	ICTリテラシーⅡ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レポートの作成と編集ができる。 ● 表計算ソフトを活用し、情報の整理や活用ができる。 ● プレゼンテーションに関する基礎知識について学ぶ。 ● 毎分 30 文字以上のタッチタイピングができる。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した 4 つの汎用的学習成果と情報リテラシーや数量的スキルについて授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時に LMS 等による振り返り (本時の学びや感想・質問等) の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項 : 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90 分)</p> <p>復習事項 : 各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90 分)</p>					
	テキスト	杉本くみ子、大澤栄子 ; 2019 『30 時間アカデミック Office2019』 実教出版					
学習評価の方法	<p>定期試験 (40 点)</p> <p>授業内での各回の課題及び振り返りレポート (50 点)</p> <p>タイピング (10 点)</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、基本操作、タイピング</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>文章の作成</p> <p>文章の編集やレイアウトの設定</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>レポートの作成と編集</p> <p>レポート作成の基本的な流れ</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>レポートの作成と編集</p> <p>情報の収集と引用</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>レポートの作成と編集</p> <p>レポートの構成と章立て</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>データの入力・編集</p> <p>データの基本、データの入力や編集</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>表の作成</p> <p>基礎的な関数や書式</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>いろいろな数式</p> <p>応用的な関数</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>グラフと図形</p> <p>グラフの作成とその特徴</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>グラフの活用</p> <p>グラフの効果的な表現方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>プレゼンテーションの作成</p> <p>プレゼンテーションの基本、スライドの作成</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>プレゼンテーションの作成</p> <p>プレゼンテーションのストーリーの組み立て方</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>図やオブジェクトの挿入と編集</p> <p>図やオブジェクトの挿入と編集</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>特殊効果とスライドショーをサポートする機能</p> <p>アニメーション、リハーサル</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	データサイエンス I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後		e_mail : nosho@owc.ac.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学の専門科目においては、観察、実験、調査、その他のいろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求されるため、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な統計学や統計的知識について説明できる。 ● データの処理や分析方法などの統計的技能が身につく。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した2つの専門的学習成果と数量的スキルや論理的思考力、問題解決力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時にLMS等による振り返り(本時の学びや感想・質問等)の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項:各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90分)</p> <p>復習事項:各回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90分)</p>					
	テキスト	<p>相澤裕介:2019『統計処理に使うExcel 2019 活用法—データ分析に使えるExcel実践テクニック—』カットシステム</p>					
注意事項	<p>参考図書:</p> <p>玄場 公規 他:Excel で学ぶビジネスデータ分析の基礎 オデッセイコミュニケーションズ、2016</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、Excelの基本操作</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>統計学基礎</p> <p>基本統計量（平均値、中央値、最頻値、レンジ）</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>関数</p> <p>統計処理のための関数</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>グラフ作成とテーブル作成</p> <p>様々なグラフの作成とテーブル作成、クロス集計</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>統計処理①</p> <p>相対評価のための統計処理</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>統計処理②</p> <p>絶対評価のための統計処理</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>統計処理③</p> <p>成績評価のための統計処理</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>分散と標準偏差</p> <p>分散と標準偏差の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>偏差値</p> <p>偏差値の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>母集団と標本、不偏分散</p> <p>母集団と標本の平均と不偏分散の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>正規分布</p> <p>正規分散の統計的理解と算出方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>相関</p> <p>相関の統計的理解と算出・分散方法</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>平均値の信頼区間</p> <p>信頼区間の統計的理解と算出・分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>アンケートの信頼区間</p> <p>アンケートの具体例と調査分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	データサイエンスⅡ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	納庄 聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業終了後				e_mail : nosho@owc.ac.jp			
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学の専門科目においては、観察、実験、調査、その他のいろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求されるため、下記項目について修得することを到達時の目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シミュレーションや分析のための高度な統計処理方法について知る。 ● アンケートなどのデータをもとに高度な統計処理方法について知る。 <p>学生の学習成果 :</p> <p>教育目標に記載した2つの専門的学習成果と数量的スキルや論理的思考力、問題解決力について授業を通して獲得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストやプリントを配布して授業を行う。授業の形式は講義と演習を行う。適宜、演習や練習問題を実施して、学習内容の定着を図る。</p> <p>授業終了時にLMS等による振り返り(本時の学びや感想・質問等)の記述を求める。振り返りにより学習理解状況を確認しながら授業を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>予習事項: 各回の授業前にテキスト等に目を通し、学習内容を把握しておく。(90分)</p> <p>復習事項: 毎回の授業でその内容のポイントを示すので、テキスト等の見直しや整理をする。(90分)</p>					
	テキスト	<p>相澤裕介: 2019、『統計処理に使う Excel 2019 活用法—データ分析に使える Excel 実践テクニック—』カットシステム</p>					
学習評価の方法	<p>小テスト (50点)</p> <p>各回の課題及び振り返りレポート (50点)</p>						
注意事項	<p>データサイエンスⅠも履修することが望ましい</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>シラバス、授業の進め方、成績評価、Excelの基本操作</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
2 回	<p>平均値の比較</p> <p>帰無仮説と対立仮説、t検定とF検定</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
3 回	<p>母集団の分散の比較</p> <p>F検定による分散方法と等分散・不偏分散</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
4 回	<p>等分散のt検定</p> <p>等分散のt検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
5 回	<p>不偏分散のt検定</p> <p>不偏分散のt検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
6 回	<p>対応のあるt検定</p> <p>対応のあるt検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
7 回	<p>比率の比較</p> <p>比率の比較と期待値の算出の統計的理解、X²検定による分析方法</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
8 回	<p>分散分析</p> <p>分散分析の統計的理解とF分布</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

9 回	<p>1 要因の分散分析</p> <p>1 要因の分散分析と統計的理解</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
10 回	<p>2 要因の分散分析</p> <p>2 要因の分散分析と統計的理解</p> <p>予習事項：テキストを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
11 回	<p>テキストマイニング</p> <p>形態素解析とクラスタ分析、共起ネットワーク、コレスポンデンス分析</p> <p>実験計画法、コホート研究、相対リスク（リスク比）、ハザード比</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
12 回	<p>論文作成のための統計分析記述方法</p> <p>図表の作成方法と有効数字、表記法</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
13 回	<p>アンケート作法とWebアンケート作成</p> <p>様々なアンケートと尺度、WEBを用いたアンケート作成方法</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
14 回	<p>アンケート調査と分析</p> <p>アンケート調査と分析</p> <p>予習事項：配布プリントを予習し、今回の学習内容を把握する。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>
15 回	<p>学習の振り返りとまとめ</p> <p>学習内容の全範囲について総合的に見直す。</p> <p>復習事項：テキストや配布資料をもとに講義内容を復習する。</p>

令和4年度教育計画							
科目名	インターネットと法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近 勝彦
質問受付：毎月曜日午後4時10分—午後5時		e-mail：dark-blue@star.nifty.jp					
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：21世紀初頭の情報化の中心は、インターネット関連であるといっても過言ではない。そのインターネットによって、我々は情報を入手・発信し、きわめて多くの利便性を得てきた半面、これまでの国家制度、社会制度、社会秩序、文化等に大きな変容が迫られている。ここでは、インターネットの法的課題を考察することを通じて、現代社会の諸問題を考察する。とくに、個人の視点にたつて、自らが様々なインターネットからの被害に巻き込まれないように、知識的実践的な護身力をつけることを目指す。さらに、近年は、「IoT ビッグデータ AI」が大きく新技術としてクローズアップされているので、新しい話題にも触れる。</p> <p>学生の学習成果：個人がインターネットを通じて取引するECや自身が情報を発信することも増えていくことが予想されるので、法的なトラブルに巻き込まれない知識やリテラシーを身につける。さらには、1年前期の講義であるので、法の構造や法律の解釈の仕方の基本的考え方を身につけることを目指す。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>まず、現在起きている様々なインターネットと法との接点をpptやHPおよび教科書を使用して多角的に議論する。そのあとに、自らが考え、判断する力を養成するためには、応用的な事例を提示するので、みんなで討論をしてみたい。そのうえで、担当の課題を決めて、学生が発表する。</p> <p>講義の終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<p>各回の予習・復習の時間はそれぞれ90分、あるいは合計180分</p> <p>復習としては、課題を考えて、適宜、発表してもらおう。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。</p>					
	テキスト	<p>近勝彦他著：『集客の方程式』、学術研究出版</p> <p>その他参考資料は適宜配布する</p>					
学習評価の方法	<p>急速に進むIT社会の中で、基礎的な法・社会現象の構造と問題点を理解し、それへの適切な対応が取れるような理解力を身につける。期末試験(70%)、レポート(30%)とする。</p>						
注意事項	<p>アクティブラーニングの観点も取り入れて、学生の主体的参加を活発化させるように講義を展開しますので、学生の積極的に参加意識を期待いたします。質問がある方は上記メールアドレスに質問を送ってください。必ず回答いたします。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	第一回目は、本講義のオリエンテーションをおこなう。 内容：なぜインターネットと法を考えるのかと AI のシミュレーション 検討課題：法の考え方と社会発展の調和および AI 社会の意義とその課題
2 回	タイトル：インターネットの基本的特徴と情報社会の進展 内容：なぜ新しい現代的課題が出現したか インターネットの普及状況 情報社会の特徴とインターネットの特徴 検討内容：「インターネットの負の側面を考える」
3 回	タイトル：AI ビッグデータ IoT とインターネットビジネス 内容：企業活動の AI 化 我々はいかに情報を入手し、いかに発信するか 経営と情報はいかに結びついているのか 検討内容：「新しい経営手法としての情報経営とは」
4 回	タイトル：電子商取引と法 1-拡大する EC とその問題点 内容：企業間取引とその課題 企業対個人間取引 個人間取引 検討内容：「EC は商慣習や法律をいかに変えるか」
5 回	タイトル：電子商取引と法 2-個人情報保護 内容：個人情報をいかに守るか 情報保護法に原則 検討内容：「インターネットを使った取引で個人情報保護をいかに守るか」
6 回	タイトル：電子商取引と法 3-著作権保護 内容：いかにして著作権を保護するか 国内法と海外の法の違いと課題 検討内容：「越境 EC の発展と著作権の課題」
7 回	タイトル：経験経済と情報化 1－経験と学習 内容：経験経済とは なぜ経験か 情報化は経験を高めるか 検討内容：「経験の価値を理解する」
8 回	タイトル：経験経済と情報化 2－ネットコミュニティ 内容：情報化による経験の事例研究 4つの E 検討内容：「Education Entertainment Esthetic Escape の価値と質」
9 回	タイトル：新しいワークスタイルと ICT 内容：テレワークを考える 仕事と余暇のバランス 検討内容：「テレワークのいい面と悪い面を考える」
10 回	タイトル：新しいライフスタイルと ICT 内容：ニューノーマルを考える 検討内容：「ネット生活の課題を考える」

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	タイトル：インターネットと社会問題 1-迷惑メール 内容：メールの便利さと問題点 迷惑メールにいかに対処するか 検討内容：「スパムメールは法によって制限できるか」
12 回	タイトル：インターネットと社会問題 2-ウイルス 内容：ウイルスの実態とそれをどう防ぐか 検討内容：「ウイルスの危険性と対策」
13 回	タイトル：インターネットビジネスその 1 内容：シェアリングエコノミー 検討内容：「シェアードなビジネス」
14 回	タイトル：インターネットビジネスその 2 内容：ネットで名物を販売する 検討内容：「地域 EC と越境 EC」
15 回	タイトル：総括 内容：AI 時代の社会経済の発展の図式 検討内容：個人を大切に ICT の応用とその可能性

別表 1 基礎教育科目

科目群	授業科目	必修	選択	計	備 考
クリエイティブ力基礎科目群	人間の発達	8	2	2	
	日本国憲法		2	2	
	生涯学習概論		2	2	
	倉数学		2	2	
	基礎数学		2	2	
	基礎化学		2	2	
	基礎生物学		2	2	
	グローバル研修		1	1	
	キャリアガイダンス		2	2	
	英語 I		2	2	
	英語 II		2	2	
	体育理論		1	1	
	体育実技		1	1	
	小計		8	23	23
マネジメント力基礎科目群	ICTリテラシー I	8	2	2	
	ICTリテラシー II		2	2	
	ソサエティ5.0理解		2	2	
	データサイエンス I		2	2	
	データサイエンス II		2	2	
	アクティブラーニング I		2	2	健康寿命延伸教室 I
	アクティブラーニング II		2	2	健康寿命延伸教室 II
	クラブ活動の活性化		2	2	
小計	8	16	16		
ホスピタリティ力基礎科目群	少子高齢化と諸問題	6	2	2	
	児童福祉概論		2	2	
	ボランティア理論		2	2	
	正しい日本語		2	2	
	栄養士基礎理解		2	2	
	社会心理学		2	2	
	臨床心理学		2	2	
小計	6	14	14		
	合計	22	53	53	

別表 2 食物栄養学科専門科目

区分			授業科目	必修	選択	計	備 考		
現代生活基礎科目			インターネットと法		2	2			
			食物基礎科学		2	2			
			プレゼンテーション		2	2			
			生活史	6	2	2			
			食文化論		2	2			
			フードコーディネーター		2	2			
			食料経済		2	2			
			小計	6	14	14			
栄養士法管理栄養士指定教育分野	講義又は演習必修単位	実験又は実習必修単位							
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	公衆衛生学Ⅰ	2	2	2			
			公衆衛生学Ⅱ	2	2	2			
			公衆衛生学Ⅲ		2	2			
			健康管理論	2	2	2			
			社会福祉概論	2	2	2			
			小計	6	6	10			
	人体の構造と機能・疾病の成り立ち	14	解剖生理学Ⅰ		2	2			
			解剖生理学Ⅱ		2	2			
			解剖生理学実験Ⅰ	7	1	1			
			解剖生理学実験Ⅱ		1	1			
			運動生理学		2	2			
			生化学Ⅰ		2	2			
			生化学Ⅱ	3	2	2			
			生化学実験		1	1			
			病理学	2	2	2			
			微生物学	2	2	2			
			小計	14	13	17			
			食べ物と健康	8	食品学総論Ⅰ		2	2	
					食品学総論Ⅱ		2	2	
					食品学総論実験		1	1	
	食品学各論				2	2			
	食品学各論実験Ⅰ	3			1	1			
	食品学各論実験Ⅱ				1	1			
	食品加工学Ⅰ				2	2			
	食品加工学Ⅱ				2	2			
	食品加工学実習				1	1			
	食品品質管理論				2	2			
	食品分析学				2	2			
	調理学Ⅰ				2	2			
	調理学Ⅱ				2	2			
	調理学実習Ⅰ	3			1	1			
	調理学実習Ⅱ				1	1			
	調理学実習Ⅲ				1	1			
	食品衛生学Ⅰ				2	2			
	食品衛生学Ⅱ	2			2	2			
	食品衛生学実験				1	1			
	小計	8			30	30			
	専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学		2	2		
		基礎栄養学実験		1	1	1			
		応用栄養学	6	運動栄養学		2	2		
				応用栄養学		2	2		
				栄養アセスメント		2	2		
		応用栄養学実習		1	1				
		小計	6	10	10				
		栄養教育論	6	栄養教育論Ⅰ		2	2		
栄養教育論Ⅱ					2	2			
栄養教育管理					2	2			
栄養教育論実習Ⅰ					1	1			
栄養教育論実習Ⅱ					1	1			
小計				6	8	8			
臨床栄養学		8	臨床栄養学Ⅰ		2	2			
			臨床栄養学Ⅱ		2	2			
			臨床栄養学Ⅲ		2	2			
			臨床栄養学実習		1	1			
			臨床栄養学演習		2	2			
			小計	10	14	14			
公衆栄養学		4	公衆栄養学Ⅰ		2	2			
			公衆栄養学Ⅱ		2	2			
公衆栄養学実習			1	1					
小計		10	14	14					
給食経営管理論		4	給食経営管理論Ⅰ		2	2			
			給食経営管理論Ⅱ		2	2			
			給食経営管理実習Ⅰ		1	1			
			給食経営管理実習Ⅱ		1	1			
総合演習			2	2					
総合演習	2	給食経営管理実習事前事後		1	1				
		小計	6	9	9				
臨床実習	4	給食経営管理臨床実習Ⅰ		1	1				
		給食経営管理臨床実習Ⅱ		1	1				
		公衆栄養臨床実習		1	1				
		臨床栄養臨床実習		2	2				
		小計	0	5	5				
単位数	60	22							
自由科目			卒業研究Ⅰ		2	2			
			卒業研究Ⅱ		2	2			
			小計	0	4	4			
			合計	62	113	121			
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目		学校栄養指導論Ⅰ		2	2			
			学校栄養指導論Ⅱ		2	2			
			小計	0	4	4			
	栄養・教育の基礎的理解に関する科目等		教育原理		2	2	教育史を含む。		
			教師論		2	2			
			教育制度論		1	1			
			教育心理学		2	2			
			特別支援の方法と理解		1	1			
			教育課程論		1	1			
			道徳・特別活動・総合的な学習の時間		2	2			
			教育の方法及び技術		1	1			
			生徒指導論		2	2			
			教育相談		2	2	カウンセリングを含む。		
	事前・事後指導		1	1					
	栄養教育実習		1	1					
	教職実践演習(栄養教諭)		2	2					
	小計	0	20	20					

注1) 表中の選択は、選択必修である。

注2) 栄養士免許の取得及び管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、表中の栄養士法管理栄養士指定教育分野の専門基礎分野及び専門分野のそれぞれの区分に記載する講義又は演習必修単位及び実験又は実習必修単位の単位数を充足するよう授業科目の単位数を修得すると共に、表中の必修及び選択必修の単位を含めて学期に規定する卒業に要する単位を修得しなければならない。

岡山学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会規程

(趣旨)

第1条 学生に、①専門職として予測困難な時代を生き抜くための、学生が自律的に学習し行動する力を身に付けること、②数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を身に付けること目標とする教育プログラムを体系的に実施することを推進するために必要な事項を定める。

(目的)

第2条 この規程は、前条の趣旨に基づき岡山学院大学（以下「本学」という。）に数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会（以下「委員会」という。）を設置し、全学的に取り組むことを目的とする。

(任務)

第3条 委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「プログラム」という。）において身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法及び内容並びに実施体制に関する事項
- (2) 学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関する事項
- (3) プログラム最優秀修了者表彰に関する事項
- (4) プログラムについての自己点検・評価に関する事項
- (5) プログラムの情報公開に関する事項
- (6) その他プログラムの実施に際し必要な事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員を持って組織する。

- (1) 委員長は、学長が指名し、委員会を運営・統括する。
- (2) 委員は、学長が指名した教職員若干名
- (3) その他委員長が必要と認めた者
 - 2 前項に掲げる委員の任期は、原則文部科学大臣が認定するプログラムの計画期間とする。
 - 3 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員長は、会務を総括するとともに会議を招集し、その議長を務める。

- 2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職を代行する。
- 3 委員長は、会議運営のため、その他委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(自己点検・評価)

第6条 第3条第4項に掲げる自己点検・評価は次に掲げる事項について、本学学則第1条第2項に定める岡山学院大学自己点検・評価委員会において行う。

- (1) プログラムの教育課程に関する事項
- (2) プログラムの学生支援に関する事項
- (3) 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項
- (4) 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況に関する事項
- (5) プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項
- (6) 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法に関する事項

(情報公開)

第7条 第3条第5項に定める情報公開は、認定に関する申請様式、毎年自己点検・評価結果等を本学のホームページに公開するものとする。

- 2 前項の情報に加え、次に掲げる情報も積極的に公開するように努める。
 - (1) プログラムの中で学生が実際に取り組んだ課題や扱ったデータ・ツール等
 - (2) プログラムで用いた教材、プラットフォーム等
 - (3) データサイエンスを身近なものとして学生が実感し、それを活用・応用するための工夫・取組

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、学務課において処理する。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員会の議を経て、委員長が別に定める。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、教授会に諮って学長が行う。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

学校法人原田学園
岡山学院大学教育研究活動推進委員会規程

- 第1条 岡山学院大学の教育研究水準の向上を図り、目的及び社会的使命を達成するために本学理事会に教育研究活動推進委員会、専門委員、教育研究活動充実会議を置く。
- 第2条 教育研究活動推進委員会(以下「委員会」という。)は、建学の精神に基づく教育研究上の理念、目的、学校教育法に定める大学の目的、日本国高等教育の目指すべき基本方向に照らし、本学教育研究活動の充実改善に資する点検評価を行うものとする。
- 第3条 委員会の委員は、理事長の任命した委員、若干名をもって組織する。
- 2 委員会の委員の任期は、当該入学年度の5月1日から、その翌年の4月30日までとする。但し、再任を妨げない。
- 第4条 委員会に委員長を置き、委員のうちから理事長が任命する。
- 第5条 委員会で点検評価した事項については、報告書を作成し、理事長にこれを報告する。
- 第6条 委員会に関する諸事務は、別に定める関係部署で行う。
- 第7条 委員会で点検評価する項目は別に定める。
- 第8条 委員会は必要に応じて専門部会を設けることができる。
- 第9条 専門部会は専門委員で組織し、点検評価項目の専門的情報収集、整理、分析作業を行い、委員会に資料を提出する。
- 第10条 専門委員は委員会において選任し理事長が任命又は委嘱する。
- 2 専門委員の任期については第3条2項の規定を準用する。
- 第11条 教育研究活動充実会議は、点検評価の結果を総合評価して、充実改善の原案を作成し、理事長に報告するものとする。
- 第12条 教育研究活動充実会議は、理事会全員でもって組織する。
- 第13条 この規程の改廃は、理事会の議決を経て理事長が行うものとする。

附 則

この規程は平成14年4月1日より施行する。

平成23年5月25日改正

基準Ⅰ ミッションと教育の効果

ミッション

ミッションを確立している。

高等教育機関として地域・社会に貢献している。

教育の効果

教育目的・目標を確立している。

学習成果（Student Learning Outcomes）を定めている。

卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。

内部質保証

自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。

教育の質を保証している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

教育課程

授与する学位分野ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。

授与する学位分野ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。

教育課程は、大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うよう編成している。

授与する学位分野ごとの入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。

授与する学位分野ごとの学習成果は明確である。

学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。

学生の卒業後評価への取り組みを行っている。

学生支援

学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。

学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。

学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。

進路支援を行っている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

人的資源

教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。

専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。

学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。

労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。

物的資源

教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。

施設設備の維持管理を適切に行っている。

技術的資源をはじめとするその他の教育資源

大学は、教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。

財的資源

財的資源を適切に管理している。

財務の実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

大学の設置者の長のリーダーシップ

法令等に基づいて大学の設置者の管理運営体制が確立している。

学長のリーダーシップ

学習成果を獲得するために教授会等の大学の教学運営体制が確立している。

ガバナンス

監事は法令等に基づいて適切に業務を行っている。

評議員会等は法令等に基づいて開催し、諮問機関等として適切に運営している。

大学は、高い公共性と社会的責任を有しており、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。

岡山学院大学評価項目観点表

基準 I ミッションと教育の効果

大学のミッション・教育理念、教育目的・目標、学習成果（Student Learning Outcomes）、教育課程及び教育プログラムの相互の関係について、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」の三つの方針を含めて明確に示す。

学習成果を焦点とした教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践においては量的・質的データを基にした学習成果の分析・評価を行い、恒常的かつ系統的な自己点検・評価に基づいて、教育研究活動の見直しを図る内部質保証の仕組みを確立し行っていることを明確に示す。

ミッション

大学は、教育目的・目標、学習成果、教育課程及び教育プログラムの基礎となるミッションを学内外に示さなければならない。また、地域・社会に貢献することが求められる。

項目	点検・評価の観点
ミッションを確立している。	(1) ミッションは大学の教育理念・理想を明確に示している。 (2) ミッションは教育基本法等に基づいた公共性を有している。 (3) ミッションを学内外に表明している。 (4) ミッションを学内において共有している。 (5) ミッションを定期的に確認している。
項目	点検・評価の観点
高等教育機関として地域・社会に貢献している。	(1) 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施している。 (2) 地方公共団体、企業（等）、教育機関、研究機関、文化団体及び海外の諸機関等と協定を締結するなど連携している。 (3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。

教育の効果

教育の効果は、大学の教育の質を保証するものでなければならない。

大学は、ミッションに基づく教育目的・目標及び学習成果を明確にし、それに基づき三つの方針を一体的に策定し、学内外に示さなければならない。

教育の効果を高めるために大学は、教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検しなければならない。三つの方針は、教育目的・目標、学習成果に基づき組織的議論を重ねた上で策定し、一貫性・整合性のあるものでなければならない。

項目	点検・評価の観点
教育目的・目標を確立している。	(1) 学部・研究科等の教育目的・目標をミッションに基づき確立している。 (2) 学部・研究科等の教育目的・目標を学内外に表明している。 (3) 学部・研究科等の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。
項目	点検・評価の観点
学習成果 (Student Learning Outcomes) を定めている。	(1) 大学としての学習成果をミッションに基づき定めている。 (2) 学部・研究科等の学習成果を学部・研究科等の教育目的・目標に基づき定めている。 (3) 学習成果を学内外に表明している。 (4) 学習成果を学校教育法の大学の規定に照らして、定期的に点検している。
項目	点検・評価の観点
卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針 (三つの方針) を一体的に策定し、公表している。	(1) 三つの方針を関連付けて一体的に定めている。 (2) 三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。 (3) 三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。 (4) 三つの方針を学内外に表明している。

内部質保証

大学は教育の継続的な質の保証を図り、社会的に魅力ある大学であり続けるために、自己点検・評価に積極的に取り組み、それに基づき教育研究活動の見直しを継続的に行う内部質保証を機能させることが必要である。なお、大学の設置者の長、学長など、大学の管理運営組織が自己点検・評価とそれに基づいた内部質保証に率先して関わり、ALO (Accreditation Liaison Officer : 認証評価連絡調整責任者) の任務を支援し、そ

の体制を構築しなければならない。

自己点検・評価活動に際しては、次の四つの視点で進めることが重要である。①具体的活動を行っている当事者が責任者となる、②学習成果を焦点にする、③根拠に基づき誠実、公正、客観的に行う、④学内全体の対話を通じて改善方法を考え出す。なお、自己点検・評価活動に加え、独自の外部評価や相互評価を行うことも有益である。

教育の質を保証するための査定（アセスメント）には、到達目標設定、事実の評価など、計画（資源配分を含む）、実行、検証、改善という PDCA サイクルを継続的に用いなければならない。

項目	点検・評価の観点
自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。 (2) 定期的に自己点検・評価を行っている。 (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。 (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。 (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。 (6) 自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。
項目	点検・評価の観点
教育の質を保証している。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。 (2) 査定の手法を定期的に点検している。 (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。 (4) 学校教育法、大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

教育課程と学生支援

学習成果や卒業認定・学位授与の方針に基づく教育課程の編成と学習環境について明確に示す。

卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や進学などにつながる学習成果の獲得を保証していることを明確に示す。

卒業認定・学位授与の方針が、社会的・国際的に通用性が保証されるものであることを明確に示す。

学習を支援する環境（専門支援担当者の配置、図書館又は学習資源センター等での学生支援なども含む）を整え、学習成果の獲得を向上させていることを明確に示す。

教育課程

大学は、卒業認定・学位授与の方針を定めて、体系的な教育課程を編成しなければならない。その卒業認定・学位授与の方針は、卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や進学などにつながる学習成果の獲得を保証し、社会的・国際的に通用性が保証されるものでなければならない。したがって、大学は、三つの方針を明確にし、それを基にして自己点検・評価を行い、質の向上・充実のための査定（アセスメント）を継続していかなければならない。

大学は、学部・研究科等の専攻分野に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養を培うよう配慮しなければならない。また、専門的及び汎用的な学習成果の獲得を基盤にした幅広く深い教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養するための教育を適切に行うことも求められる。加えて、専門職学科においては、専門性が求められる職業を担うための実践的な能力及び当該職業の分野において創造的な役割を担うための応用的な能力を育成し、職業倫理を涵養するよう配慮が必要である。

教育の効果は、学生の学習成果の獲得状況を量的・質的データとして収集し、そのデータを分析・解釈して顕在化することで判定できる。

項目	点検・評価の観点
授与する学位分野ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授与する学位分野ごとの卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。 (2) 卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。 (3) 卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。
項目	点検・評価の観点
授与する学位分野ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授与する学位分野ごとの教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。 (2) 教育課程編成・実施の方針に従って、体系的に教育課程を編成している。 <ul style="list-style-type: none"> ① 大学設置基準等にのっとり体系的に編成している。 ② 学習成果に対応した、授業科目を編成している。 ③ 専門職学科においては、当該学科の専攻に係る職業の状況等を踏まえて授業科目の開発及び編成を行っている。 ④ 単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限設定等を行っている。 ⑤ 成績評価は学習成果の獲得を大学設置基準等にのっとり判定している。 ⑥ シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）

	<p>を明示している。</p> <p>⑦通信による教育を行う学部・研究科等の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。</p> <p>(3) 教育課程の見直しを定期的に行っている。</p> <p>(4) 専門職学科における授業科目の開発、教育課程の編成及びそれらの見直しにおいて、教育課程連携協議会の体制・役割は明確である。</p>
項目	点検・評価の観点
教育課程は、大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うよう編成している。	<p>(1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。</p> <p>(2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。</p> <p>(3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。</p>
項目	点検・評価の観点
授与する学位分野ごとの入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。	<p>(1) 入学者受入れの方針は学習成果に対応している。</p> <p>(2) 学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。</p> <p>(3) 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。</p> <p>(4) 入学者選抜の方法は、入学者受入れの方針に対応している。</p> <p>(5) 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。</p> <p>(6) 専門職学科における入学者選抜は、実務の経験を有する者その他の入学者の多様性の確保に配慮している。</p> <p>(7) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。</p> <p>(8) アドミッション・オフィス等を整備している。</p> <p>(9) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。</p> <p>(10) 入学者受入れの方針を高等学校等関係者の意見も聴取して定期的に点検している。</p>
項目	点検・評価の観点
授与する学位分野ごとの学習成果は明確である。	<p>(1) 学習成果に具体性がある。</p> <p>(2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。</p> <p>(3) 学習成果は測定可能である。</p>
項目	点検・評価の観点

学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。	<p>(1) GPA 分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。</p> <p>(2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生への調査、インターンシップや留学などへの参加率、在籍率、卒業率、就職率、進学率などを活用している。</p> <p>(3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。</p>
項目	評価の観点
学生の卒業後評価への取り組みを行っている。	<p>(1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。</p> <p>(2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。</p>

学生支援

大学は、学習成果の獲得に向けて教育資源（人的資源、物的資源、技術的資源）を有効に活用して学生の学習支援を図り、成績評価基準等に従って学習成果の獲得状況を評価し、学習成果の獲得が向上するように教育方法、教育課程及び教育プログラムの見直しを行わなければならない。

大学は、ミッションと教育目的・目標に基づいて、多様な学生を募集し、その入学を許可し、教育課程に基づき学習成果を獲得させなければならない。学生支援は、学生のニーズを的確に捉え、それに対応した学習支援の環境を整えることである。

大学は、学生の学習を支援するために図書館や学習資源センター等に専門性が高く、種類が豊富な資料を用意するとともに、学生支援のための専門的職員を配置することが望ましい。

大学は、学生生活支援や進路支援のための組織や支援体制を整備しなければならない。

項目	点検・評価の観点
学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	<p>(1) 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。</p> <p>①シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。</p> <p>②学習成果の獲得状況を適切に把握している。</p> <p>③学生による授業評価を定期的を受けて、授業改善に活用している。</p> <p>④授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。</p> <p>⑤教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。</p> <p>⑥学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。</p> <p>(2) 事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。</p> <p>①所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲</p>

	<p>得に貢献している。</p> <p>②所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。</p> <p>③所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。</p> <p>④学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。</p> <p>(3) 大学は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。</p> <p>①図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。</p> <p>②教職員は、図書館又は学習資源センター等の学生の利便性を向上させている。</p> <p>③教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。</p> <p>④教職員は、学生による学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。</p> <p>⑤教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。</p>
<p>項目</p>	<p>点検・評価の観点</p>
<p>学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。</p>	<p>(1) 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。</p> <p>(2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。</p> <p>(3) 学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。</p> <p>(4) 学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。</p> <p>(5) 基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。</p> <p>(6) 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。</p> <p>(7) 通信による教育を行う学部・研究科等の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。</p> <p>(8) 進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。</p> <p>(9) 留学生の受入れ及び留学生の派遣（長期・短期）を行っている。</p> <p>(10) 学習成果の獲得状況を示す量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。</p> <p>(11) 編・転入学生に対して適切な指導助言を行う体制を整備している。</p>

項目	点検・評価の観点
<p>学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。 (2) クラブ活動、大学行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。 (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。 (4) 宿舎が必要な学生に支援（学生寮、宿舎のあっせん等）を行っている。 (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。 (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。 (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。 (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。 (9) 留学生在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。 (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。 (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。 (12) 長期履修生を受け入れる体制を整えている。 (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。
項目	点検・評価の観点
<p>進路支援を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。 (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。 (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。 (4) 学部・研究科等ごとに卒業・修了時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。 (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教育目標を達成するために教育資源（人的資源、物的資源、技術的資源）及び財

的資源を効果的に活用していることを明確に示す。

教育資源と財的資源の自己点検・評価を実施し、大学の向上・充実のための計画など点検結果について明確に示す。

大学は、財務の実態を把握し、財政上の安定を確保するように経営計画を策定し、管理していることを明確に示す。

人的資源

大学は、有能な教職員（人的資源）を雇用して、学習成果を獲得するための教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践においては量的・質的データを基に学習成果を分析・評価し、恒常的かつ系統的な自己点検・評価を通じて三つの方針を見直し整備することが求められる。

教職員は、学習成果に照らした教育実践のために、PDCA サイクルによって、自ら日常的に点検・評価し、改善し、専門的人材として、たゆまぬ研鑽を積み重ねなければならない。

そのために、大学は、組織的な FD・SD 活動を推進し、時代の変化に対応できるよう教職員の資質、教育能力、専門的能力の向上を図らなければならない。

項目	点検・評価の観点
教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	(1) 大学及び学部・研究科等の教員組織を編制している。 (2) 大学及び学部・研究科等の専任教員は大学設置基準等に定める教員数を充足している。 (3) 専任教員の職位は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、大学設置基準等の規定を充足している。 (4) 教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員（兼任・兼担）を配置している。 (5) 非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、大学設置基準等の規定を準用している。 (6) 教育課程編成・実施の方針に基づいて補助教員等を配置している。 (7) 教員の採用、昇任は就業規則、選考規程等に基づいて行っている。
項目	点検・評価の観点
専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	(1) 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席、その他）は教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。 (2) 専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。 (3) 専任教員の研究活動に関する規程を整備している。

	<ul style="list-style-type: none"> (4) 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みを定期的に行っている。 (5) 専任教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。 (6) 専任教員が研究を行う研究室を整備している。 (7) 専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。 (8) 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。 (9) FD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ①教員は、FD活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。 (10) 専任教員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう学内の関係部署と連携している。
項目	点検・評価の観点
学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学の教育研究活動等に係る事務組織の責任体制が明確である。 (2) 事務職員は、事務をつかさどる専門的な職能を有している。 (3) 事務職員の能力や適性を十分に発揮できる環境を整えている。 (4) 事務関係諸規程を整備している。 (5) 事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。 (6) SD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。 (7) 日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、改善している。 (8) 事務職員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう教員や関係部署と連携している。
項目	点検・評価の観点
労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教職員の就業に関する諸規程を整備している。 (2) 教職員の就業に関する諸規程を教職員に周知している。 (3) 教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。

物的資源

大学は、教育課程と学生支援の充実のために、大学設置基準等に規定される校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備・活用しなければならない。物的資源の整備（取得／処分）・活用は、大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

ない。

項目	点検・評価の観点
<p>教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。</p>	<p>(1) 校地の面積は大学設置基準等の規定を充足している。 (2) 適切な面積の運動場を有している。 (3) 校舎の面積は大学設置基準等の規定を充足している。 (4) 校地と校舎は障がい者に対応している。 (5) 教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。 (6) 専門職学科においては、臨地実務実習その他の実習に必要な施設を確保している。 (7) 通信による教育を行う学部・研究科等を開設している場合には、添削等による指導、印刷教材等の保管・発送のための施設が整備されている。 (8) 教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機器・備品を整備している。 (9) 適切な面積の図書館又は学習資源センター等を有している。 (10) 図書館又は学習資源センター等の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等が適切である。 ①購入図書選定システムや廃棄システムが確立している。 ②図書館又は学習資源センター等に参考図書、関連図書を整備している。 (11) 適切な面積の体育館を有している。 (12) 多様なメディアを高度に利用して教室等以外の場所で授業を行う場合、適切な場所を整備している。</p>
項目	点検・評価の観点
<p>施設設備の維持管理を適切に行っている。</p>	<p>(1) 固定資産管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等を、財務諸規程に含め整備している。 (2) 諸規程に従い施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を維持管理している。 (3) 火災・地震対策、防犯対策のための諸規程を整備している。 (4) 火災・地震対策、防犯対策のための定期的な点検・訓練を行っている。 (5) コンピュータシステムのセキュリティ対策を行っている。 (6) 省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされている。</p>

技術的資源をはじめとするその他の教育資源

技術的資源をはじめとするその他の教育資源は、教育課程と学生支援を充実させるために十分なものでなければならない。技術的資源をはじめとするその他の教育資源の整備・活用は、大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

大学は、学生の学習、教育研究に対する学内外のネットワーク及び運営体制のニーズに合わせた技術的資源を有し、その利用については目的・行動指針を定めるとともに、自己点検・評価を通じて活用しなければならない。

項目	点検・評価の観点
大学は、教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	(1) 教育課程編成・実施の方針に基づいて技術サービス、専門的な支援、施設設備の向上・充実を図っている。 (2) 情報技術の向上に関するトレーニングを学生及び教職員に提供している。 (3) 技術的資源と設備の両面において計画的に維持、整備し、適切な状態を保持している。 (4) 技術的資源の分配を常に見直し、活用している。 (5) 教職員が教育課程編成・実施の方針に基づいて授業や学校運営に活用できるよう、学内のコンピュータ整備を行っている。 (6) 学生の学習支援のために必要な学内 LAN を整備している。 (7) 教員は、新しい情報技術などを活用して、効果的な授業を行っている。 (8) コンピュータ教室、マルチメディア教室、CALL 教室等の特別教室を整備している。

財的資源

財的資源は、教育課程と学生支援を充実させ、教育機関としての向上に十分なものでなければならない。財的資源の適切な配分によって、教育課程と学生支援を開発し、整備し、その向上が図られる。大学は、財務の実態を把握し、財政上の安定を確保するように経営計画を策定し、管理しなければならない。財的資源の管理は、大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

項目	点検・評価の観点
財的資源を適切に管理している。	(1) 計算書類等に基づき、財的資源を把握し、分析している。 ①資金収支及び事業活動収支は、過去3年間にわたり均衡している。 ②事業活動収支の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を把握している。 ③貸借対照表の状況が健全に推移している。 ④大学の財政と大学の設置者の財政の関係を把握している。

	<ul style="list-style-type: none"> ⑤大学の存続を可能とする財政を維持している。 ⑥退職給与引当金等を目的どおりに引き当てている。 ⑦資産運用規程を整備するなど、資産運用が適切である。 ⑧教育研究経費は経常収入の20%程度を超えている。 ⑨教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての資金配分が適切である。 ⑩公認会計士等の監査意見への対応は適切である。 ⑪寄付金の募集及び学校債等の発行は適正である。 ⑫入学定員充足率、収容定員充足率が妥当な水準である。 ⑬収容定員充足率に相応した財務体質を維持している。 <p>(2) 財的資源を毎年度適切に管理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学の設置者及び大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定している。 ②決定した事業計画と予算を速やかに関係部門に指示している。 ③年度予算を適正に執行している。 ④日常的な出納業務を円滑に実施し、経理責任者を経て大学の設置者の長に報告している。 ⑤資産及び資金（有価証券を含む）の管理と運用は、資産等の管理台帳、資金出納簿等に適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適正に管理している。 ⑥月次試算表を毎月適時に作成し、経理責任者を経て大学の設置者の長に報告している。
<p>項目</p>	<p>点検・評価の観点</p>
<p>財務の実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学の将来像が明確になっている。 (2) 大学の強み・弱みなどの客観的な環境分析を行っている。 (3) 経営実態、財政状況に基づいて、経営（改善）計画を策定している。 <ul style="list-style-type: none"> ①学生募集対策と学納金計画が明確である。 ②人事計画が適切である。 ③施設設備の将来計画が明瞭である。 ④外部資金の獲得、遊休資産の処分等の計画を持っている。 (4) 大学全体及び学部・研究科等ごとに適切な定員管理とそれに見合う経費（人件費、施設設備費）のバランスがとれている。 (5) 学内に対する経営情報の公開と危機意識の共有ができている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

大学の教育の使命を果たすために、積極的にリーダーシップが発揮され、ガバナンスが有効に機能していることを明確に示す。

大学の設置者の長を中心とする管理運営組織が、経営責任の視点に立って学習成果を焦点とした大学教育の向上・充実を目指していることを明確に示す。

財務等の情報公表・公開を通じて、社会に対して説明責任を果たし、関係者の理解と協力を得られるよう努めていることを明確に示す。

大学の設置者の長のリーダーシップ

大学の設置者の長は、大学のミッションに基づき、公共性を高め、大学経営を先導していくリーダーシップと経営責任を果たさなければならない。

大学の設置者においては、経営の効率性・合理性の追求だけでなく、倫理に基づく人間性・社会性とのバランスが取れた経営を実践し、大学の設置者の長の経営責任と監事の監査機能の強化により、経営問題の解決やリスク・マネジメント（危機管理）を強化しなければならない。

項目	点検・評価の観点
法令等に基づいて大学の設置者の管理運営体制が確立している。	(1) 大学の設置者の長は、大学の設置者の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。 (2) 大学の設置者の長は、法令等の規定に基づいて諸会議を開催し、適切に運営している。 (3) 理事は、法令等に基づき適切に構成されている。

学長のリーダーシップ

学長は、大学のミッションに基づき、教育の質を保証しなければならない。質の保証とは、教育課程と学生サービスに対する学生ニーズの評価、教育目的の設定、教員組織・施設設備・財的資源の配分、そして教育の実践について明確にすることである。また、教育目的・目標の達成のために、学習成果の獲得の質的・量的データを収集・解釈し、適切に教育機能を向上させるために自己点検・評価を行わなければならない。

教授会は、教授会規程に基づき、学長（又は規程に定める者）が議長となって法令に定められた事項、その他教育研究に関する重要事項で学長が必要と定めたものについて意見を述べるほか、学長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。学長は、教授会の意見を聴いて、リーダーシップを発揮し、最終的な判断を行わなければならない。

項目	点検・評価の観点
----	----------

<p>学習成果を獲得するために教授会等の大学の教学運営体制が確立している。</p>	<p>(1) 学長は、大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。 (2) 学長等は、教授会を学則等の規定に基づいて開催し、大学の教育研究上の審議機関として適切に運営している。</p>
---	---

ガバナンス

ガバナンスは、大学の設置者の長、学長の意思決定やリーダーシップが大学の向上・充実に対して適切に発揮されていることを確認することである。

大学の設置者の長の権限と責任が有効に機能しているかを確認する上で、監事と評議員会又は経営協議会等（以下、「評議員会等」という。）がその役割を担い、責任を果たさなければならない。

項目	点検・評価の観点
<p>監事は法令等に基づいて適切に業務を行っている。</p>	<p>(1) 監事は、大学の設置者の業務、財産の状況及び理事の業務執行の状況について適宜監査している。 (2) 監事は、大学の設置者の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、関係会議で意見を述べている。 (3) 監事は、大学の設置者の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、法令等に基づいて毎会計年度、監査報告書を作成し提出している。</p>
項目	点検・評価の観点
<p>評議員会等は法令等に基づいて開催し、諮問機関等として適切に運営している。</p>	<p>(1) 評議員会等の諮問機関等は、法令等に基づき運営している。</p>
項目	点検・評価の観点
<p>大学は、高い公共性と社会的責任を有しており、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。</p>	<p>(1) 法令に基づき、教育情報及び財務情報等を公表・公開している。</p>

岡山学院大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム概要

【プログラムの目的】

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を身に付ける

【修了要件】

下記の授業科目を全て修めること

基礎教育科目：基礎数学、ICTリテラシーI、ICTリテラシーII、

データサイエンスI、データサイエンスII、ソサエティ5.0理解

現代基礎科目：インターネットと法

数理・データサイエンス・AI教育プログラムのカリキュラムツリー



モデルカリキュラム科目該当対照表(令和4年度)

モデルカリキュラム (リテラシーレベル)		基礎数学	ICT リテラシーⅠ	ICT リテラシーⅡ	データ サイエンスⅠ	データ サイエンスⅡ	ソサエティ5.0 理解	インターネット と法
導入 (社会におけるデータ・AI活用)	1-1						○	○
	1-2		○	○		○		
	1-3		○					
	1-4		○	○				
	1-5		○			○		
	1-6						○	○
基礎 (データリテラシー)	2-1	○			○	○		
	2-2			○	○	○		
	2-3	○			○	○		
心得 (データ・AI活用における留意事項)	3-1		○	○		○		
	3-2		○				○	○
オプション (統計および数理基礎)		○						

岡山学院大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検評価の流れ

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を身に付ける

情報と私

- 1986年：岡山で生まれる
 - 幼少期から自宅にパソコンがある（一般的に当時は）
 - 1995年：Windows 95発売（家庭用PCの普及へ）
- 2002年：高校入学
 - 写真部とコンピュータ同好会に所属（HTMLでホームページのプログラミング）
 - YouTubeやニコニコ動画はまだなかった（動画配信時代）
- 2005年：大学入学
 - 地学を学べる情報系の学部に入学（パソコン、C言語、プログラミングの講義を受ける）
- 2007年～：他大学に編入～大学院
 - 卒業でプログラミングを本格的に学ぶ（独学）
 - 以降、自分でプログラムを作ってデータ解析をして
 - この頃、iPhone発売（まだガラケー全盛期）
- 2019年～：非常勤講師に
 - 情報リテラシーやプログラミングを講義
 - 2020年以降、新型コロナ流行でオンライン会議が主

プログラムの自己点検・評価

③情報公開（HP等）

①点検

数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会

④プログラム改善

②下記の評価項目で点検

【プログラムの評価項目】

1. プログラムの教育課程に関する事項
2. プログラムの学生支援に関する事項
3. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項
4. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況に関する事項
5. 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法に関する事項